

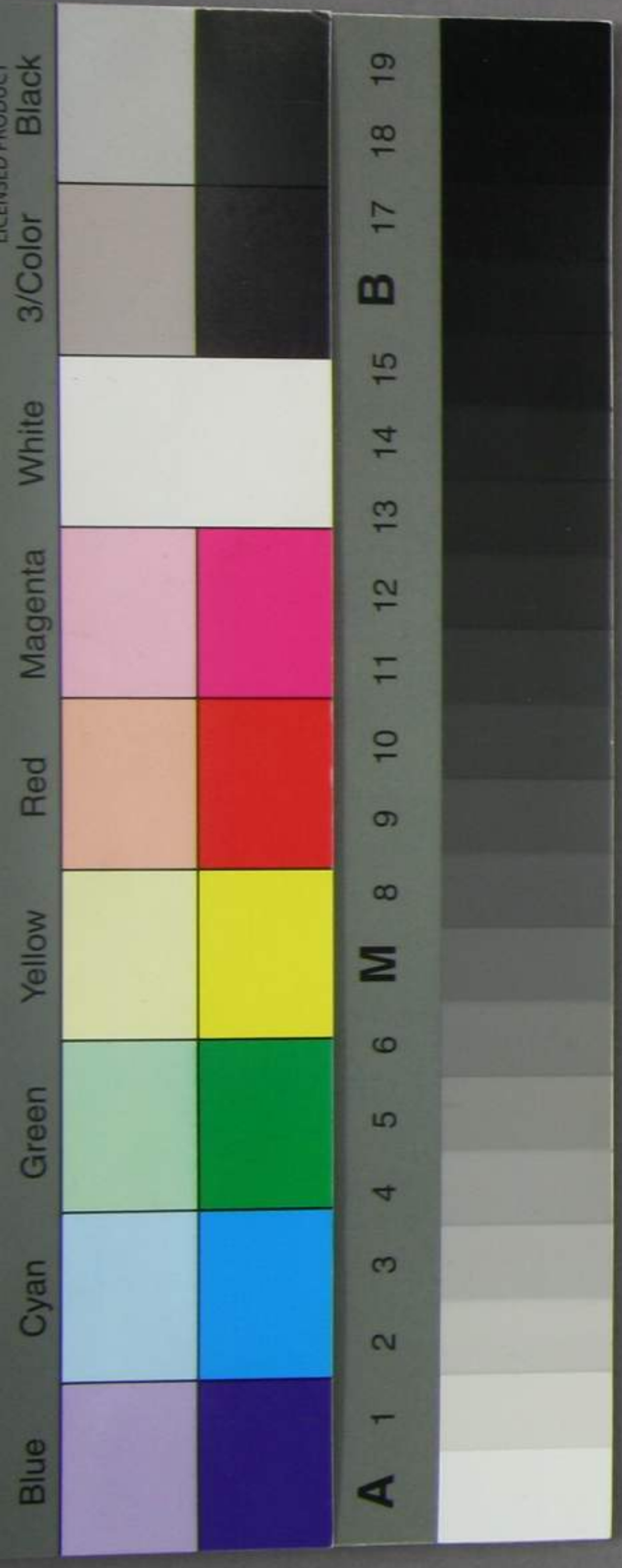
114
A3172



今度上海出張中退見聞及上思想之考慮は條件
王者の存存於序系の上詳細申上は心得るは
我得共不致及参考の為に開陳し直に
茶の事

先便に申上は開陳の事も指實地は上及
英商の試験の為に至極粗悪の九州茶
有り製法は先緑茶に見るは在處實に驚く
べき交換の事も極く美品に似たり製法は
上ゲルトハ一時は信用難附程の事あり
代價の上昇は長崎輸出の上茶にて代價僅

大正
英商
印
信



十三四位ノモノナルニ製製者ノ其初一等ノ品ハ上海市場
ニ多凡ソ四十五元位ノ品價有テ申スル者古製製
ノ費用品位代價附テおハ紙ヒツトシテノ報告
者中ニ明瞭者ニ同別紙ニ申シテ依ル者製製
ニ付テ方ノ損失ニ事ト存テ投今般滞在中
清回者ノ何福益今般貸金事件ノ付件通ノ目代
トシテ周旋シテ清高某ノ番頭也
十んモノ右製製者ノ其初一等ノ品ハ上海市場
ニ多凡ソ四十五元位ノ品價有テ申スル者古製製
ノ費用品位代價附テおハ紙ヒツトシテノ報告
者中ニ明瞭者ニ同別紙ニ申シテ依ル者製製
ニ付テ方ノ損失ニ事ト存テ投今般滞在中

日本ニ方々有テ茶ヲ其集メ輸出ニ運ヒテ其
其時ノ其場ヲ以買取古製製者ノ費用是引旁拂
取上其利益ヲ兩分取テ及製者ノ仕務及ヒ
賣拂ノ次初モ有テ付日本ニ方々有テ其差出右
者ノ監督者有テ其初モ有テ九州茶業
製法并摘採ノ時節貯蓄ノ方法亦甚粗悪ニ
看スル品位ヲ及見テ付先ッ當年ハ右等ノ事モ
注意シテ及見日本産茶地方實際見聞ノ
製茶業者老練者ノ其初モ有テ其初モ有テ其初モ有テ
其初モ有テ其初モ有テ其初モ有テ其初モ有テ其初モ有テ

人ヲ要シ其時ハ四五十人位ニ是又自費ヲ以テ之ニ可申
トシ事ニ有ルハ此トテ製茶業ノモ時宜ニ其トテハ
長崎ニ法操以テ申ルル事トシテ之ニ事トシ
ヨシトシ右ニ製茶ノ業トシテ之ニ事トシテ之
專ラテ支那地方ノ賣捌キルル事トシテ之ニ事トシ
テ之ニ事トシ我邦盛大ニ産業ヲ挽回シ一舉ニ之テ
追テ緑茶ノ製法ヲ成ルル事トシテ之ニ事トシ
今般勸業局ニ於テ製茶法ノ緑茶産地
ニテ之ニ事トシ之ニ事トシ之ニ事トシ
以テ之ニ事トシ到底日本ニテ支那製茶ノ業トシテ

其ハ支那地方内外茶商ノ為ニ不利トシテ之ニ事トシ
兎角種々ニ故障ヲ唱ヘ充テテ價格ヲ付キルル事トシ
相成リテ之ニ事トシ之ニ事トシ之ニ事トシ
支那茶ノ名義ヲ以テ販賣ルル事トシテ之ニ事トシ
之ニ事トシ却テ該業盛大ニ捷徑ヲ得ルル事トシ
於テ製茶ノ業トシテ之ニ事トシ之ニ事トシ
之ニ事トシ製茶ノ業トシテ之ニ事トシ
可成ルル事トシ之ニ事トシ之ニ事トシ
模擬シテ之ニ事トシ之ニ事トシ
各國市場ニテ之ニ事トシ之ニ事トシ

知ラサルニ因リ到底多由ク好顧ヲ受ル支那ノ業ニ
及シテ寇角盛大ニ遊キ其儀モ亦ト支那人ノ
説承リ及ヒテ叔中事件ヲ存スル迄前已ニ品川ホ
夫ニ申立モ有之及ヒ今般益田等ト海濱在中野
諸語及ヒテ事モ有之及ヒ及ヒ間島トハ
不知シ事ト有之存スル前條ノ次多ク有
遇ス可カラサル為メ付深ク以テ注意ヲ下ス以テ著
手ニ成幾何ノ結果モ生シテ後者之及存ス

木材ノ事

昔々已ニ以テ承知モ有之通支那地方ハ欠乏シ品物

ニシテ少シク注意スルニ今後我國貿易上一廉
ノ品物ノ可者ニ從来進テ輸出相成来テ是等
何分ノ敷ニシテ未タ日本材木ノ名稱ヲ顯ス至ラズ且支那
商人ノ内材木問屋ナルモノアリ何レヨリ之モ材木ノ輸入
者之ヲ時ハ互ニ連合ニテ其價格ヲ低下セシテ賣買者
ニ因リ今後成之ニ輸出段々自直キテ賣却ス
ヲ要セス一箇廣大ノ場アリ撰ミ材木ノ積場トシ
多數モ集リテ之ヲ賣ル同屋ノ所拘ル廣ク
入札拂等々賣捌キ時ハ自統問屋ニ連合モ破
且日本材木ノ名稱モ相弘リ輸出隆盛ニ道モ有之

可申其乾るや、其後亦、先年上海に於て買入其
海軍省用地當時強て不用、其後其程、
を得、其、材木、道、海、に、其、定、り、る、可、然、る、併
右、粗大重量、品、者、自然、運、輸、に、費用
亦、相、當、り、り、者、差、向、學、今、に、其、輸、出、成、大、に
立、到、り、る、者、難、成、了、る、何、の、風、帆、船、に、力、に
據、り、ん、得、せん、為、其、存、り、者、右、に、別、條、に、申、出、

石炭之事

右、先、便、に、述、べ、其、陳、少、年、直、通、に、次、第、存
今後、採、り、居、る、海、運、意、相、成、反、上、海、に、於、て、石、炭、に、輸、入

高及七各品、用方亦取潤、其夫、別、紙、に、述、ぶ、者、
以、參、考、に、為、流、る、政、進、呈、其、

紙之事

右、近、年、清、國、に、輸、入、其、紙、年、如、キ、ハ、三、野、一、百
萬、張、ト、十、万、圓、内、外、に、輸、出、其、由、に、申、上、る、者、
其、輸、出、の、品、種、ハ、清、國、高、人、の、品、物、に、對、當、キ、り、耐
包、紙、の、其、用、に、品、者、依、る、日、に、清、國、に、屬、し、
其、品、に、付、居、る、其、用、に、一、廉、に、品、種、に、其、成、る、
其、者、其、他、日、本、紙、に、見、奉、紙、部、局、に、其、出、に、
其、其、の、得、考、何、分、其、紙、に、比、較、し、る、者、

價格存外ニ高直ニシテ速モ充分ノ貿易品トシ
難成出品川原多クモ清國紙商ニ為見以爲
品ニ依テハ真ツク上製ノ美品モ有之事ニ得共
到底ケ極ク高價ニシテ販賣試験も無益
申長ク由物多ク紙のニ限ラズ一休ノ品物類テ
販賣ノ増多永續ヲ旨トシ一時ノ浮利ヲ貪ラズ
賤價ヲ以テ市場ニ競争ヲ求メル方却テ真ノ利益
ヲ成シ得ル就中新規ニ市場ニ於テハ消費
者ノ方ニテモ其名稱ノ慣シス其所用モ定マラン程
事ニ可ク其間方右賤價競争ニ依テ新規

市場ノ開クニシテ一休貿易上第一眼目ニ可ク之
間人民ニ於テモ其名稱ノ解以テ其稱ノ誘導
ニ順者ニ及ビ存ク我四年方其製紙ノ品貨
代價付見事而冊在係及進呈其在印國製衣
ノ方ハ紙幣類ニ調整相成其モノ能ク其存

石礦之事

右ノ見事トシテ上海ニ送リ方之如何分白色ノ石礦
ニシテ又那人ノ好賞ニ適スル英國リッセル製衣造品
ノ如ク黄色ヲ加ヘ且包装モ右ニ相方ラザル様注意相成リ
是又早速ノ賣捌モ付キ且利益可ク之類ニ該地

龍動製成ノ掉石磁拾箇斤量二千八磅ニシテ
價ハ三弗二十五セントニ有リ又リガルホル製成ハ十四箇
同斤量ノモノニシテ凡ク一ターン位ノ下真ニ有ラズ由
之見奉ルルニヒットマンヨリ益田トモ送リテ石磁有
之由有ルルナリ

和歌山縣產出織物之事

右ノ品物見本該地ノ産出ナリ何レモ編入ニシテ
支那人ニ有ラズ向テ有ラズ若シ無地ニ有物ニシテ
販賣スル途ニ有ルニ或ルモノ有ラズ依テ古色柄見本
ニシテ持帰リテ有別封シテ有ラズ是進也

摺附本之事

右ノ即國製造ノ品上海ニ輸入後大ニ影響有リ生
市場ノ價格ヲ落シテ由今外國人ノ有ラズ之
其分大俸二千五箱余モ有ラズ由今即國製
輸入以前ニ大箱一箇ニ三千四五弗乃至四拾申
位ノ價ニ有ラズ由今即國ノ製成ニ有ラズ
聞ニ有ラズ且現在輸入ノモノ相成ルル由今ハ
漸ク二千三弗位ノ價ニ有ラズ由品川ニ有ラズ
製成ノ費用并ニ支那國ニ運送スル費用有リ
相積ラセテ處到底二千五弗ニシテ損得無之

計其長之受廿三弗之直其外必之方之也
看之損失其受之其事之其見之申其必其年之
相成其外國輸入之品之自然減少之波其時之際
印國製之品手廣之販賣其必其及事之由人
此之者之其物之其損又製造之其等粗惡之流
其此此上一層注意相成其其必其其必其必其
者之度也

包箱之事

此之是也印國內之其一向之注意之其必其其
件之者之其得者方今輸出產物之由陶器漆器

其他之開物類之如手信贈答之相送之品類ハ
今一層之注意之其紙製之品之美麗之飾ハ
市場之持出之其格有之其又販賣增多之端ハ
其必其其必其其必其其必其其必其其必其其必其
於上海為督所設立之事

右之從前第一國之銀行之其相送之其方之其
相成其其必其其必其其必其其必其其必其其必其
其必其其必其其必其其必其其必其其必其其必其
先之者之其其必其其必其其必其其必其其必其其必其
實際之用之其必其其必其其必其其必其其必其其必其

之如印國人之已者為智也組々との見做之計算
お立テり方堅固之法る可然る存る上海港出入
ノ印國人所携乃之金高の酒を多の概里列練之通
有るる若之國之銀行ノ方る強テ見込に
其以現在廣業商會なる傍ラ為替營業
其の間其の幾分は亦倫相成便利ノ方法を立
其事一之り其の却る入費も亦多し且其為替業
其一二繁盛之々々地ノ自業増殖之其為ノ互損
失相醸之其患も亦々々々西航ノ業ノ可者も亦
存也

風帆廻漕船之事

運輸ノ便宜ヲ其用キ其ハ貿易繁盛ノ甚ク者
其ハ今更事新交多年ヲ談々せん其ハ印國ノ如キ
モ三菱會社ノ設立其ハ以來各口運輸ノ道
大ニ開ケ物品ノ轉移庶民ノ往來日々繁盛ニ其
趣キ其執之者之其得者前條陳述の如ク石炭木
材等ノ如キ粗大重量ノ品物ハ汽船ヲ以テ運搬
其時ハ膏ノ充分ノ積載ヲ得ケタキノミナラズ運費
相當ノ兎角盛大ノ貿易ヲ營ムニ其ノ兼テ其將未
一層市注意相成三菱會社ノ例ニ倣ヒ幾干政府

ノ保護ヲ其ヘ回會社ノ也又ハ他ノ一社也ニ專ラ風帆
船廻漕ノ業ヲ営マセ茲相成テハ支那地方トノ
習ヲ易モ即國各口岸ヲ直輸モ亦生米粗大重量
ノ品類ト雖モ防者輸出營業盛ニ事ニ多ク可申
外ト存テ尤モ風帆船ニ是ト追テ即國内ノ又
汽船ノ由機関湯罐ホ破壊ニ及ヒ其分モ多ク
可多ク存者ヲ風帆船ニ變形ニテ所用亦亦々兩航
儀ヲ存テ其古船新規機関等入付ルニ
殆ト破損ノ舊屋ヲ修繕以テ其類ニ計ラル
ノ費用亦亦々却テ新製ノ汽船購求トハ利益

有之且汽船ヲ風帆製ニ變形其時ハ船質モ堅牢
ト多ク便利ニ多ク其由亦及ヒ其本邦ノ如ク
長大ノ品ヲ積入在船ハ其類ノ船形ニ引ルニ便ナク
シメシガ為メ艙ヲ移而一箇ノ窓窓ヲ開キ以テハ相叶ル
モノ由リ其産在將又今般ニ其會社ヲ移ル汽船
二艘ヲ風帆船トシ器械入付ニ為英函ハ廻漕改ニ
其風帆者ニ其得失存ビツトモ其建言ニ以テ
者ニ別封ニシテ其者又其産在者ニ改メ
其々他條ニ對シテ其者ハ頗ル重大ノ事件ニ實際
施行モ難事ト可者ト其得共又緊要ノ事項是モ

我國航海之道，大相開中其基礎，方之其間，深以
即高之而相成，幾何於實際，運上而付其任，以
右之條，擬男多及調申上，自統以考考之一物
今為成也，其是也，至之也，也。

明治十年三月

大藏書記官吉原重俊

大藏卿大隈重信殿

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

清國地方之稅之出入金高
擬男取調書

高

金三万四千四百圓 北京公使館

本年公費及書記見習及通年之寫年俸金五千元分

金壹万〇百圓拾四 天津領事館

本年公費及書記見習年俸金五千元分

金壹万〇百圓拾四 上海領事館

於公費及書記之費由國稅料之計今年分

金三千元 上海分

於各省分府之計及品代稅費之計

金五千四百元 郵便局

於公費及掛員月俸之計及品代稅料之計今年分概算

金壹万四千元 陸軍省

於福島大佐如多他之計及品代稅料之計今年分概算

金三万五千元 骨董家

於骨董家之計及品代稅料之計今年分概算

金壹万五千元 上海書店

金

於本地出資之計及品代稅料之計今年分概算

於一時返航之計及品代稅料之計今年分概算

金百萬元

於廣東省分府之計及品代稅料之計今年分概算

414
A 3172
2

明治九年中止海ニ於テ販賣ノ為メ多國ヨリ
輸入シタル石炭總高及價額

但價ハ一トシ存ク積リシ

地名	塊炭	粉炭	高價	低價
英	壹万貳千五百トシ		九テールニメース	ハテール
フランス	三万四千九十八トシ		ハテールニメース	セテールニメース
高嶋	壹万貳千七百トシ	塊 壹万三千壹百トシ	ハテールニメース	六テール九メース
米國 アトランティック	貳千四百トシ			
唐津	壹万三千トシ		五テールハメース	四テールニメース
台湾 キリロシ	壹万五千四百トシ		四テール九メース	四テール

大蔵省

大蔵省

日本各地	四万三千百トシ	凡五テール半	凡四テール
三池	三千トシ	四テール五六メス	四テール位
合計	拾四万七千八百三拾四トシ		

一 高崎炭大小塊合計約万六千三百九拾トシの内凡沙万五千トシハ正月より九月迄ノ輸入高ニシテ十月より十二月迄ハ三月月ニテ凡千三百トシ位ニ減少シタリ

一 日本各地トアルハ地名ノ差生リタル計ト昂ナリ
 唐津中肥 多々前肥 小勝前肥 久原前肥
 今福前肥 平戸 天州中肥 熊野前肥

一 炭質ニ因リテ用ニ所ノ別アル如ク

英炭 凡十分四 英軍艦ニ用ユ

凡十分六 當港及内地鍛冶職用ユ

フースタリヤ 内地一般鍛冶職用ユ

高嶋 蒸氣及ガス燈用

アムトサカイ 鍛冶職用

唐津 蒸氣及暖爐用 鍛冶職用ユ

キーロシ 蒸氣用

三池 ガス燈用

多々 小勝

久原

今福

蒸氣及ニ紙法職用

平戸

天州

料理屋用

紀伊

暖爐用

右ニ支那及西子商人五六名ヲ聞得ル所ニテ
輸入高キ海濱屋金局ノ調ナリ